

2-5

個別ケアの実践への取り組み

多様化するニーズに答えるためにどうしたらよいか

グループケア

個別ケア

特別養護老人ホーム フジホーム

介護員・こがねざわ やすのり 小金沢 康哲

介護員 もりやま りみお 守山 文雄

東京都昭島市中神町 1260

0425-41-5985

Fujihome-sc@douen.jp

0425-41-5468

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

フジホームは、昭和 40 年 10 月に開設し、平成 13 年 10 月に改築をきっかけに 2 階～4 階が 100 床の居住スペースで、1 階に事務所やデイサービス・居宅支援事業所などが併設された大型複合施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 個別ケア実践のための業務改善
- 職員の意識向上
- 環境改善
- 個別ケアサービスの模索・試行

〈具体的な取り組み〉

- ニーズ別に利用者に住み分けていただく。
- 規定の職員数を有効に配置する。
- 3フロアで各階独立型の介護業務確立
- 定型業務の廃止
- 小規模生活単位化による馴染みの関係作り
- リスクマネジメント
- 個別サービスへの模索と試行
 - ・個別外出・外食への取り組み
 - ・重介護者に対するケア方法
- 職員の小規模生活単位型介護への意識調査
- OJT による介護技術向上
- PEAP 日本版の活用による環境改善
 - ・キッチンの増設
 - ・畳空間の施行
 - ・生活感の演出
- 介護職員室の廃止
- 今後の課題と「新しい資源」の開発
- 検討期間及び準備期間 2 年、試行から軌道に乗るまでに 2 年を費やす。

〈活動の成果と評価〉

- ニーズ別に利用者が住み分けていただいたことにより、限りある職員数を有効に活用できた。それにより、業務に余裕が生まれ、新しいサービスを模索する事が始まった。
- グループケアを行うことにより、フロアによってはユニット的な介護が始まった。
- 利用者への観察力が向上したため、ヒヤリハット報告書が増加。リスクマネジメントの意識向上。
- 自立度の高い利用者に対し、地域生活者として個別外出が積極的に行われた。
- 認知症利用者に対し、寄り添うケアや回想法的なケアにより問題行動の軽減。
- 重介護者に対し、複合的に五感へのアプローチを積極的に行なった。

〈今後の課題〉

- 地域生活者として利用者の企画からの参加への促し。
- さらなる認知症ケアの模索。
- さらなる重介護者ケアの模索

〈参考資料など〉

- クリッパンの老人たち 1990 外山義
- PEAP 日本版 3